

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「開発創造・和衷敬愛・質実剛健」の建学の精神のもとに、「生徒の望む進路を実現する学校」をめざしていく。
 育てたい生徒像：(開発創造)自分で創意工夫でき、(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、
 (「開拓者精神」による実践)勇気を持って常に新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。
 重点課題：自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力の育成

2 中期的目標

1 生徒の学力を高め、進路を保障

(1) 学習における自律精神の育成

ア 規範意識を高め、挑戦する心の育成

※授業遅刻の減少 (H29:3000、H30:2900、H31:2800) (H28:3053)、生徒指導の徹底 (化粧、標準服のスカート丈の重点指導)、教育相談等サポートの充実 (ケース会議の定期開催)

イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進

※「総合的な学習の時間」の充実 (基礎学力定着の取組み)

※進路指導の充実 (進路マニュアルに沿った統一的な指導、成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談の実施)

※授業アンケート「1 生徒取組」(授業内容について必要な予習や復習ができてい)の学校平均を H29:2.78、H30:2.79、H31:2.80 にする (H28 : 2.77)

同じく「5 教材活用」(先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている)の学校平均を H29:3.11、H30:3.12、H31:3.13 にする (H28 : 3.10)

(2) 国際交流の推進

ア 多様性を理解し、コミュニケーションの機会を増加させる

※自己表現力の向上のため、文化祭、体育祭、学校説明会等での発表機会を増やす

※修学旅行、福祉体験、交流学习等体験学習の充実

イ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める

※在校生の国際交流：韓国・ニュージーランド・台湾の姉妹校への派遣、及び、姉妹校の受け入れによる相互交流

※ニュージーランドへの長期留学制度の継続

※卒業生の国際交流：ニュージーランド・台湾の姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣

※英語アシスタントの受け入れ：ニュージーランドから卒業生を英語のアシスタントとして受け入れる

※英検受験者を H29:195 人、H30:200 人、H31:205 人にする (H28 : 191 人)

※第 2 外国語としての中国語、韓国・朝鮮語の資格試験受験者の増加

※地域の国際関連施設と語学を通じた連携を進める

※学校教育自己診断 (生徒)「国際交流を行う機会が多い」を H29:83%、H30:84%、H31:85%にする (H28 : 82%)

(3) 進路保障の充実

ア 希望進路に沿った学力の育成

※コースに基づいたクラス編成の実施

※進路獲得に向けた計画的な講習の実施

※アジア太平洋コース選択者の増加

イ 国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数を創立 60 周年 (H31) までに H29:90 人、H30:95 人、H31:100 人にする (H28 : 89 人)

※進路ごとの相談体制の充実

※学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を H29:61%、H30:63%、H31:65%にする (H28 : 60%)

同じく「コース選択や進路について先生に相談が十分にでき、情報も十分に与えてくれている」を H29:80%、H30:81%、H31:82%にする (H28 : 78%)

※スタディマラソン (夏期) での卒業生の協力 (学習支援、講話等) の充実

2 生徒の活力を高め、充実した学校生活

(1) 生徒会活動、部活動の活性化

ア 生徒会執行部の育成

※管理職との情報交換会を年 3 回実施し、生徒会から聞いた要望の実現をめざす

※学校教育自己診断 (生徒)「生徒会活動は活発である」を H29:71%、H30:73%、H31:75%にする (H28 : 70%)

イ 部活動の更なる充実

※学校教育自己診断 (生徒)「部活動は活発である」を H29:80%、H30:83%、H31:85%にする (H28 : 79%)

(2) 体験活動の重視

ア 生徒の達成感の向上をはかり、自尊感情・自律心・共生の精神を育む

※中学校等や近隣施設との交流推進

学校教育自己診断 (生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」を H29:45%、H30:47%、H31:50%にする (H28 : 43%)

※学校行事の充実

学校教育自己診断 (生徒)「文化祭が楽しい」「体育祭が楽しい」を H29:82%、H30:83%、H31:85%にする (H28 : 「文化祭」「体育祭」とも 81%)

3 教員の指導力を高め、良き教育環境作り

(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成

ア 授業力の向上（観点別シラバスに沿った、わかりやすい授業をめざす）

※校内授業見学会・校外授業研修の参加者増加、授業先進校及び中学校への視察者増加

※学力生活実態調査の結果を分析し授業に活かす（教科会での分析会を年5回実施）

※学校教育自己診断（生徒）「わかりやすい授業が多い」をH29:45%、H30:47%、H31:50%にする（H28:43%）

※授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」（8授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。）の学校平均をH29:2.96、H30:2.98、H31:3.00にする（H28:2.95）

イ ICTを利用した授業、グループ学習、発表（伝える）能力育成をめざす授業を心がける

※プロジェクター常設教室を4教室増加する

※学校教育自己診断（生徒）「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」をH29:65%、H30:67%、H31:70%にする（H28:63%）

※授業アンケート「6先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい。」をH29:3.08、H30:3.09、H31:3.10にする（H28:3.07）

※生徒会、PTA、60周年記念事業準備委員会との対話を通じ修繕要望をリスト化し、適宜実行する

(2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を高める

ア 情報共有の場としての拡大会議の実施

イ 人権教育推進委員会の充実（3年間を見通した指導計画の再構築）

ウ 総括職員会議の充実（総括に加え、目標が達成できたかどうかの検証を行う）

※学校教育自己診断（教職員）「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」をH29:40%、H30:43%、H31:45%にする（H28:36%）

エ 生活指導部の指揮系統と役割分担の一層の明確化

4 保護者・地域との関係強化

(1) 保護者・地域との連携を深める

ア 国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける

イ 地域連携行事への参加と協力を進める

ウ 地域の小学校・中学校、及び、近隣の大学との交流を進める

エ 自転車マナー指導やクリーンキャンペーン等でのPTAや地域との連携の充実

(2) 学校情報の更なる発信

ア 学校ホームページを使った情報発信を強化する

イ メールマガジンの発行を継続する

ウ 学校説明会の内容を改善する

※学校で実施する5回の学校説明会の参加者を増加する（H29:1400人、H30:1450人、H31:1500人）（H28:1370人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>I 次の5つの観点の主な項目について、昨年度との変化を踏まえ、生徒と保護者の肯定的回答に対する「認識と今後の課題」(*)を記します。</p> <p>■学校への満足度</p> <p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」85%→83%へ低下 ・「阪南高校に入学してきてよかった」85%→89%へ上昇 ・「阪南高校には他の学校にない特色がある」80%→84%へ上昇 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは学校が楽しいと言っている」88%→87%へ低下 ・「阪南高校に入学させてよかった」89%→92%へ上昇 ・「学校の雰囲気がよく生徒が生き生きしている」90%→89%へ低下 <p>*生徒も保護者も「入学」への満足度が高まっていることは嬉しい限りです。一方で「楽しい」の満足度が両方とも低下しています。楽しくない理由を分析して改善に努めます。</p> <p>■学習指導等</p> <p>[生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で教え方にいろいろ工夫する先生が多い」50%→50%と不変 ・「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」60%→71%へ上昇 ・「授業中生徒の質問や疑問にわかりやすく対応してくれる先生が多い」71%→79%へ上昇 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは授業などでいろいろ工夫している先生が多いと言っている」46%→48%へ上昇 ・「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」59%→60%へ上昇 ・「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」64%→73%へ上昇 <p>*先生方の授業改善の成果が表れてきています。数値がさらに上がるよう、授業の獲得目標をはっきりさせ、頭を使い、表現するという授業方法の改善に努めます。</p>	<p>第1回（7/7）</p> <p>○H29 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績が上がった理由（一般入試まで頑張らせる等）を教員で共有して進路保障に力を入れてほしい。 ・遅刻数の一層の減少に取り組んでほしい。 ・十分な授業時数の確保に努めてほしい。 ・自転車事故の防止に努めてほしい。 <p>第2回（11/8）</p> <p>○学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学力向上に向けた取組みは評価できる ・プロジェクター等を使ったICT教育を効果的に取り入れてほしい <p>○前期授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教科で授業アンケートの対前年比が上昇していることは評価できる。一層の授業力向上をめざしてほしい。 <p>第3回（1/30）</p> <p>○学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の少なさが課題とのことだが、予習や宿題をしておかないといけないような授業にするのも一つの方法だと思う。 ・早朝や放課後に自習室以外の図書館等を開放するなど自習場所の確保も検討されたらどうか。 ・自己有用感を育むことも学習意欲の向上につながる。自己有用感等を聞くような設問を加えればどうか。 <p>○校則の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は生徒会とも話し合いをもったほうが良いと思う。

■生徒指導等

〔生徒〕

- ・「学校生活についての先生の指導には納得できる」68%→69%へ上昇
- ・「先生は協力して生徒の指導に当たっている」76%→80%へ上昇
- ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」76%→85%へ上昇

〔保護者〕

- ・「学校の生徒指導の方針に共感できる」76%→82%へ上昇
- ・「先生は協力して生徒の指導に当たっている」79%→82%へ上昇
- ・「ホームルーム等で人権の大切さを学ぶ機会が多い」73%→68%へ低下

*生徒の評価は上昇しています。「生徒の成長のための生徒指導」に教職員が一体となった指導に一層努めます。保護者の人権に対する評価は低下しています。人権ホームルームの内容を伝える等、保護者に理解いただけるよう努めます。

■進路指導等

〔生徒〕

- ・「将来の進路や生き方を考える機会がある」80%→89%へ上昇
- ・「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」67%→70%へ上昇

〔保護者〕

- ・「ホームルーム等で将来の進路や生き方を考える機会が多い」72%→69%へ低下
- ・「生徒の相談にのってくれたり、話を聞いてくれる先生が多い」74%→73%へ低下

*生徒の評価は上昇していますが、「相談できる先生」の数値をもっと高めたいです。生徒から「相談してみよう」と思われるような授業を教職員がますます行うよう努めます。保護者の評価は低下しています。今年度作成した「進路マニュアル」に沿った指導を教職員が共通して取ることにより、保護者の理解をいただけるよう努めます。

■学習環境等

〔生徒〕

- ・「校舎、教室、特別教室、自習室、運動場等の施設や設備はよく整備されている」49%→53%へ上昇
- ・「学校の施設や設備等が壊れたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」45%→52%へ上昇

〔保護者〕

- ・「教室、特別教室、自習室、運動場などの施設や設備はよく整備されている」52%→55%へ上昇
- ・「学校の施設や設備がこわれたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる」57%→60%へ上昇

*修繕等にできる限り努めてきました。その結果、生徒・保護者とも評価は上がったことは嬉しいですが数値は低いです。今後もできる修繕等はできるだけ早く、予算獲得の必要性のあるものは計画的に整備を進め、安全・安心な学習環境の整備に努めます。

II 教職員回答の主な項目について、昨年度との変化を踏まえ、肯定的回答に対する認識と今後の課題（*）を記します。

・「生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」87%→91%へ上昇

・「本校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている」76%→77%へ上昇

・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有効に機能している」49%→57%へ上昇

*教職員間の対話と連携はさらに進みました。これからも「生徒の成長」に全教職員が一丸となって取り組めるよう風通しの良い職場づくりに努めます。

・「教科指導に必要な単位あたりの授業時間は十分に確保されている」29%→45%へ上昇

*授業方法に加え次期学習指導要領も視野に入れて検討を続けます

・「生徒の問題行動がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている」50%→57%へ上昇

*数値が低いです。できる限り100%に近づくよう体制づくりに努めます。

・「学校案内のHPやリーフレット、学校訪問、説明会など広報活動を積極的に行っている」68%→80%へ上昇

*HPによる情報発信を強化するとともに、広報活動が効果的・効率的となるよう改善を進めます。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の学力を高め、 進路を保障	<p>(1) 学習における自律精神の育成</p> <p>イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進</p> <p>(2) 生徒参加型の国際交流</p> <p>イ 国際交流を通して、グローバルな視点から生き方を学び、積極的な人生をめざす</p> <p>(3) 進路保障の充実</p> <p>ア 希望進路に沿った学力の育成</p> <p>イ 国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数の増加</p>	<p>(1)</p> <p>イ・総合主担を設置して基礎学力充実をめざした取組みを実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路マニュアルに沿った統一的な指導を実施する 成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談を実施する <p>(2)</p> <p>イ・国際交流事業の年間計画と予算を整理し直して効率的に実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> 3カ国への語学研修の魅力を一層アピールする 新入生の保護者へ外国生徒のホームステイ家庭としての協力をアピールする <p>(3)</p> <p>ア・1年次・2年次のコース選択オリエンテーションの内容とその後の個別相談を充実する</p> <p>イ・3年間を見通した講習計画を作成するとともに、共通の教材を使用する</p>	<p>(1)</p> <p>イ・授業アンケート「1生徒取組」(授業内容について、必要な予習や復習ができている)の学校平均を2.78以上にする(H28:2.77)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート「5教材活用」(先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている)の学校平均を3.11以上にする(H28:3.10) <p>(2)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「国際交流を行う機会が多い」を83%以上にする(H28:82%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3カ国への語学研修希望者を59人以上にする(H28:58人) ホームステイ引受家庭数を31家庭以上にする(H28:30家庭) <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」を80%以上にする(H28:78%)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を61%以上にする(H28:60%)</p>	<p>(1)</p> <p>イ・授業アンケート「1生徒取組」(授業内容について、必要な予習や復習ができている)の学校平均は2.81であり目標を0.03上回った(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート「5教材活用」(先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている)の学校平均は3.18であり目標を0.07上回った(○) <p>次年度は家庭での学習時間の増加をめざす取組みを行いたい。</p> <p>(2)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「国際交流を行う機会が多い」は95%で目標を12%上回った(◎)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3カ国への語学研修希望者は44人で目標を15人下回った(△) ホームステイ引受家庭数は23家族で目標を8家族下回った(△) <p>次年度は国際交流への参加者のすそ野が広がるよう取組みを進化させたい。</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」は81%で目標を1%上回った(○)</p> <p>次年度は全担任が同じ内容を同じトーンで伝えられるよう情報共有を徹底していく。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」71%で目標を10%上回った(◎)</p> <p>次年度も引き続き授業改善に努めるとともに3年間を見通した系統的な講習を行いたい。</p>

<p>2 生徒の活力を高め充実した学校生活</p>	<p>(1) 生徒会活動、部活動の活性化 ア 生徒会執行部の育成 イ 部活動のさらなる充実 (2) 体験活動の重視 ア 学校や施設との交流の推進 イ 学校行事の充実</p>	<p>(1) ア・生徒会とクラブ員の協力で校歌DVDを作成する イ・「部活動加入促進」をテーマとした生徒会と管理職との連絡会を行う (2) ア・近隣中学校や国際関連施設との交流を進める イ・生徒が自主的に運営する学校行事となるよう指導及び支援に力を入れる</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「生徒会活動が活発」を71%以上にする (H28:70%) イ・学校教育自己診断(生徒)「部活動が活発である」を80%以上にする (H28:79%) (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」45%以上にする (H28:43%) イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」を82%以上にする (H28:81%) ・学校教育自己診断(生徒)「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」82%以上にする (H28:81%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「生徒会活動が活発」は83%で目標を12%上回った(◎)。次年度も引き続き生徒会執行部が主体的に活動できるよう支援していく イ・学校教育自己診断(生徒)「部活動が活発である」は82%で目標を2%上回った(○) 次年度は学校説明会時のクラブ体験で部活を一層アピールして新入生の入部率を高めたい。 (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」は47%で目標を2%上回った(○)。 次年度も他校生等との交流により刺激を受けるよう続けていく。 イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」は90%で目標を8%上回った(○) ・学校教育自己診断(生徒)「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」は84%で目標を2%上回った(○) 次年度はみんなで作り上げる楽しさをさらに味わえるような取組みを進める。</p>
-------------------------------	--	---	---	--

<p>3 教員の指導力を高め良き教育環境作り</p>	<p>(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成 ア 授業力の向上 イ ICT を利用した授業 (2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を構築 ア 情報共有の場としての拡大学年会議の実施 イ 人権教育推進委員会の充実 ウ 総括職員会議の充実</p>	<p>(1) ア・校内授業見学会への参加、校外授業研修への参加、授業先進校及び中学校への視察、これらの参加を勧める ・学力生活実態調査の結果を分析し授業に活かす イ・プロジェクター常設教室を4教室増加する (2) ア・拡大学年会議を定期開催する イ・3年間を見通した指導計画を再構築する ウ・年間総括に加え、目標が達成できたかどうかの検証を行う</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業が多い」を45%以上にする(H28:43%) ・校内授業見学会の見学件数をH28より増やす(H28:9件) ・校外での授業研修の参加者をH28より増やす(H28:5人) ・授業先進校及び中学校への視察人数をH28より増やす(H28:3人) ・授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」(8授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。)の学校平均を2.96以上にする(H28:2.95) ・分析するための教科会を年5回実施する(H28:未実施) イ・学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」を65%以上にする(H28:63%) ・授業アンケート「6先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい」を3.08以上にする(H28:3.07) (2) ア・学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を40%以上にする(H28:36%) イ・HR単位での指導がある新たな計画を作成する ウ・学校教育自己診断(教職員)「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進捗等について点検・検討する機会をもっている」を65%以上にする(H28:63%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業が多い」は50%で目標を5%上回った(○) ・校内授業見学会の見学件数は19件で目標を10件上回った(○) ・校外での授業研修の参加者は7人で目標を2人上回った(○) ・授業先進校及び中学校への視察人数は3人で目標と同数であった(○) ・授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」(8授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。)の学校平均は3.01であり目標を上回った(○) ・分析するための教科会は7回で目標を2回上回った(○) 次年度は小学校へも授業見学に行き刺激を受けて更なる授業力向上につなげたい。 イ・学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」は69%で目標を4%上回った(○)。 ・授業アンケート「6先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい」は3.19であり目標を上回った(○) 次年度はICTを使った授業の見学会を実施して更なる授業力向上に努める。 (2) ア・学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」は53%で目標を13%上回った(◎)。 数分でもいいので数名で対話が行われる雰囲気づくりを進める。 イ・HR単位での指導がある新たな計画の作成には至らなかった(△) ウ・学校教育自己診断(教職員)「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進捗等について点検・検討する機会をもっている」は70%で目標を5%上回った(○)。 教科担当数名でもいいので生徒の学習の弱点について対話が行われる雰囲気づくりを進める。</p>
--------------------------------	--	--	---	---

<p>4 保護者・地域力との関係強化</p>	<p>4 (1) 保護者・地域との連携を深める ア 国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける イ 地域連携行事への参加と協力を進める ウ 地域の小学校・中学校、及び、近隣の大学との交流を進める (2) 学校情報の更なる発信 ア 学校ホームページを使った情報発信を強化する ウ 学校説明会の内容を改善する</p>	<p>(1) ア・英語講座を継続し、韓国語講座を再開する イ・地元の小中学校にニュージーランドの姉妹校から来たネイティブを派遣する ウ・イングリッシュキャンプを実施する (2) ア・校長ブログを開設する ウ・学校紹介ビデオを新たにつくる</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(保護者)「PTA活動は活発である」を75%にする(H28:74%) イ・派遣日数を合計20日にする(H28:17日) ウ・イングリッシュ・キャンプの参加者を増やす(H28:8人) (2) ア・月8回以上の更新 ウ・学校説明会への参加者を1400人にする(H28:1370人)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(保護者)「PTA活動は活発である」は77%で目標を2%上回った(○) イ・派遣日数は合計25日で目標を5日上回った(○) ウ・「イングリッシュ・キャンプの参加者を増やす」は今年度は「阪南プチ留学」として実施。参加者は16人であった(◎) 次年度もクリーンキャンペーン等のPTAに協力いただける取組みを行う。また、姉妹校から来たネイティブの地域への派遣を継続するとともに、阪南プチ留学の回数を増やしたい。 (2) ア・平均して月8回以上の更新はできなかった(△) ウ・学校説明会への参加者は1470人で目標を70人上回った(○) 次年度も校外での学校説明会では本校の特色である「国際交流」を積極的にアピールして校内の学校説明会への参加者を増やしたい。</p>
----------------------------	--	--	---	--